

全体セミナー・流れ図

死生学研究会資料 ■ ①2008/4/19

死生学研究会

セミナー(講演会)

「死の不安の解消」と「生と死」 について語ろう!

全体セミナーの内容

第1部・講演…2時間30分(部セ:約2時間)

- ① 医師が直面する患者の死と、
患者が直面する死の不安。
- ② 死生観の歴史から見た、「死とは何か」。
- ③ 「死の不安の解消」について。
- ④ 各人が死生観をどう確立し、それをどう
伝えていくか。死生は表裏一体。
- ⑤ 死別の悲しみ、心の開放、不坐禅の禅。
- ⑥ 書きなぐり、自分図(Jibunzu・禅の悟り)、
なぜ死んではいけないの…?

第2部・生と死の討論……50分

…自由参加。部分セミナーは第2部省略。

* 部分セミナーの内容は、その都度変わります。

(当セミナーは、死の哲学的考察に基づいております。)

講演時間は、
2時間30分。
生と死の討論
は50分です。

約20分

約70分

約60分

討論50分

医師が直面する患者の死 (A)

- ① 日本人の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなる時代。
- ② 医師は、がん宣告や余命告知で患者の死に直面。
- ③ 医師が一番死を恐れている(アンケート調査の結果)。
- ④ 緩和ケアが十分に行われると、痛みからの解放と同時に、死そのものの恐怖が一面に現われる。
- ⑤ 死の恐怖の原因は、死ぬ苦しみ、自己の消滅、死後が分からない点等にある。
- ⑥ 日本人は死を考えようとしない、死の受容が苦手な国民。
- ⑦ 日本は、がん患者の精神的ケア体制が不十分。
- ⑧ 医師は、自分で納得できる死生観を固め、患者に思いやりのある治療を。

10分

死生観の歴史から見た「死とは何か」(C)

- ① エジプト時代—古代エジプト→その後
- ② ギリシャ時代—古代ギリシャ → ソクラテス、プラトン、アリストテレス
- ③ 釈迦
- ④ 孔子
- ⑤ キリスト
- ⑥ ムハンマド(マホメット)
- ⑦ デカルト ⑧ パスカル ⑨ カントとゲーテ
- ⑩ キルケゴール ⑪ ヘーゲル ⑫ フィヒテ
- ⑬ ノバーリス ⑭ ショーペンハウアー
- ⑮ ニイチェ
- ⑯ デイルタイ
- ⑰ ジンメル
- ⑱ ハイデガー
- ⑲ ヤスパース
- ⑳ サルトル
- ㉑ 日本人の死生観
自然神(神道)、
仏教、キリスト…
- ㉒ 現代の死生観
死の忘却の時代…
- ㉓ 死とは何か
生物学的には…

20分

*①~⑭は『死に直面…』参照

★死の不安が少しでも軽減され、ほっとした
お気持ちになられましたら幸いです。

講師：内田 誠(死生学研究会代表)

【略歴】

- 1941年、東京都八王子市生まれ。都立立川高校卒。
- 1960年~1971年、東京天文台(現国立天文台)に勤務。
- 1966年、東京理科大学理学部物理学科卒。
- 1971年、日本大学文理学部哲学専攻(通信)卒。
- 1973年、日本大学文理学部英文学専攻(通信)卒。
- (2009年、日本臨床死生学会会員)

★この資料は、参加者の皆様がメモの必要がなく、話の内容が今
どこなのかを確かめるために便利なように、講演内容を流れ図的
にまとめたもので、「全体セミナー」と「部分セミナー」共用です。

お問合せ：死生学研究会 田島直英 TEL 090-6164-2864 (内田 誠：042-624-1355)

HP：<http://www2.ocn.ne.jp/~siseiken/>

◇死に直面、死の哲学書などで検索可◇ ©2008-2016 死生学研究会

各人が死生観をどう確立し、(F)

それをどう伝えて行くか。

20分

- ① 各人の死生観の確立
- ② それをどう伝えて行くか。

- ① 死生学とは…
- ② 死生観とは…
- ③ 宇宙図について…
- ④ 自分図(Jibunzu)…
- ⑤ 死生は表裏一体。
- ⑥ 死生観の歴史を学んで
確立する。

死とは…生物学的には…
自分の死
家族や友人の死
その他の人の死
生とは…宇宙の中の…

- ① 家庭において
 - (1) きっかけ→宇宙図
 - (2) 内田仮説について
 - (3) 夫婦・親子の会話
 - (4) 大切な点→弱さを認め合う。
- ② 学校等において
 - (1) きっかけ→宇宙図
 - (2) 死生観の歴史→
 - (3) 身近なテーマ…
マンガ・ゲーム等
 - (4) 大切な点

⑦ 死生観の確立の意味→死に直面…、医療関係者、
家族や友人、教育関係者、いじめ、自殺に直面…